

市の助言内容と申出者の意見

市の助言		申出者の意見
1 外観デザインについて		
(1)	計画建築物は、都心部においても群を抜いて大規模なガラスのカーテンウォールを採用するなど、その外観が周辺の景観に与える影響は非常に大きいと考えられます。遠景コンセプト「柔らかな癒しのランドマーク」を実現するため、カーテンウォールを構成するガラスの透明度や反射、サッシ・バックパネルの色彩を含めた外装のデザイン全体について、札幌の四季による色彩バランスの変化を踏まえ、さらに丁寧な検討を進められるよう努めてください。	カーテンウォールを構成するガラスの透明度や反射、サッシ・バックパネルの色彩を含めた外装のデザイン全体について、札幌の四季による色彩バランスの変化を念頭に、具体にはモックアップを作成し、現地環境下での確認をする等の丁寧な選定を進めるようにします。
2 メインストリートの交点という立地を踏まえた設えについて		
計画敷地は、札幌駅前通と大通の交差点に位置していることから、近景コンセプト「連続性を感じる空間」を達成するため、以下の内容について検討してください。		
(1) アトリウムについて		
1)	1階のアトリウムコーナー部分の使い方について改めて検討されるとともに、建築物外部から、アトリウム内の立体的な緑の中に人が垣間見えるような設えや演出について、検討してください。	アトリウムコーナー部分につきましては、アトリウム全体の検討と併せて、その効果的な活用方法について、法的制約を含めた諸条件を踏まえながら検討を進めます。また、建築物外部からのアトリウム内の見せ方につきましても、立体的な緑の中に人が垣間見えるような設えや演出といった視点も持ちながら、さらに検討を深めてまいります。
2)	アトリウムの個性がより高まるよう、地上だけでなく、地下部分を含めた空間に一体性を持たせる設えや、地下鉄コンコース接続部分からアトリウムへの垂直感を表出するような仕掛けについて、引き続き検討を深められることを期待します。	内装デザインの特徴である有機的なルーバーにより、地上地下の一体性に配慮した環境演出を行うとともに、地下鉄コンコースからもアトリウムの垂直感を感じられるよう、引き続き検討を深めます。

3)	アトリウム内に配置される樹木について、地域性を考慮し、違和感のない植栽を選定するように検討してください。また、フェイクグリーンの使い方について検証を深めるとともに、人工的な環境制御に偏りすぎない手法についても検証され、新しい北の公共空間となるよう工夫に努めてください。	アトリウム内に配置される樹木について、地域性を考慮した樹種選定を行います。また、フェイクグリーンの使い方についても検証を深めるとともに人工的な環境制御に偏らない手法についても検証に努めます。
4)	アトリウムから中通に通ずる貫通通路が魅力的な動線となるよう、通路に面する店舗のディスプレイや照明・サイン計画等について、アトリウムの使われ方や将来的な運用を考慮しながら総合的に計画されることを期待します。	アトリウムの使われ方や将来的な運用を考慮したディスプレイや照明・サイン計画等について一定のルールを定めたデザインガイドラインを策定するとともに施設管理者やテナントと共有し、貫通通路に面する店舗も含めて貫通通路が魅力的な空間となるよう総合的な計画検討を行います。
5)	アトリウムに面する店舗が、アトリウムと一体となって特徴のある空間を形作るよう、演出ルールやサイン計画、管理方法等をあらかじめ計画されるとともに、施設管理者へ周知・共有し、供用開始後も魅力的な空間として維持・継続される体制が構築されるよう努めてください。	アトリウムに面する店舗が、アトリウムと一体となって特徴のある空間を形作るよう、演出ルールやサイン計画や管理方法等について一定のルールを定めたデザインガイドラインを策定するとともに施設管理者やテナントと共有し、魅力的な空間が維持・継続される体制を構築できるよう努めます。
(2) 屋上テラスについて		
1)	交差点などのグランドレベルから見上げた時に人の動きが視認できるよう、安全性に配慮しながら、例えば屋内側のレベルを上げる等の工夫がなされることを期待します。	グランドレベルから屋上テラスの手すりガラス越しに人の動きなどが視認できるよう、利用者の安全性に配慮しながら、引き続き検討を行います。
2)	屋上テラスは、札幌の中心部において、地上レベルではない場所から大通公園を含む街並を見渡せるパブリックスペースとして、新たなスポットとなることが期待されます。この空間が活用されるよう、冬期を含めて様々な楽しみ方ができるような仕掛けのほか、ユニバーサルデザインにも留意し外部やアトリウムからテラスへ誘引する手法について、検討を深めてください。	屋上テラスが大通公園を含む街並みを見渡せる新たなパブリックスペースとして認知され、冬季を含め年間を通じて来訪者が様々な楽しみ方ができる空間となるように検討を行います。また、ユニバーサルデザインにも留意し、多様な利用者が楽しめる空間づくりの検討を行います。

3 札幌の地域特性を生かした演出について		
(1)	雪は札幌の魅力的な特徴の一つであることを踏まえ、雪を排除するのではなく、あえて雪を残すなど、冬期においても屋外に滞在して楽しむことができる空間づくりや、雪をポジティブに捉えた積雪寒冷地ならではのデザインについて積極的に検討されるよう期待します。	冬季における環境をポジティブに捉えた積雪寒冷地ならではのデザインを意識しながら計画の検討を行います。
(2)	冬期の光の演出が効果的になされるよう、イルミネーションの使い方に留意するとともに、一年を通して魅力的な夜間景観を創出するよう検討を深められることを期待します。	冬期を含め年間を通じて、魅力的な夜間景観を創出できるよう照明計画等の検討を行います。
4 外構計画について		
(1)	敷地西側の歩道沿い空地は、駐輪場がその多くを占めており裏側感を生じやすいことから、機能面に配慮しつつ、みどりが連続するよう高木をさらに配置するなど、植栽等の工夫により空間の演出について検討してください。	地下構造物及び埋設インフラの関係から高木の配置は難しいものの、西側の歩道沿い空地の沿道緑化については、駐輪場の機能確保を行いつつ、みどりが連続する植栽の設置等の工夫を引き続き検討します。
(2)	外周のセットバックにより生まれたスペースや路面店が配された中通について、にぎわい創出の効果が高まるよう、例えばセットバック部分に植栽だけでなくベンチ等で佇める空間をつくるなど、敷地と歩道の境界部分の設えや作り方について、工夫されるよう努めてください。	外周のセットバック部分について、沿道緑化を図るための植栽計画と併せて、にぎわいの工夫としてベンチ等を配置する等、魅力づくりの検討を引き続き行います。